

生物システム応用科学府 ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

1. 博士前期・後期課程修了にあつては、以下A～Cの点に達成していることを基準とする。

(A) 各専門分野ならびに関連する学問分野について、専門的ならびに多面的な知識と、それらを運用する能力を身につけていること。

(B) 各専門分野や融合分野における高度な研究開発能力を身につけていること。

(C) 高度なコミュニケーション能力や社会的倫理観を備え、国内外の研究開発リーダーとなりうる素養を身につけていること。

2. 博士前期・後期課程にあつては、所定の年限在学し、研究指導を受け、カリキュラム・ポリシーに基づく所定の単位数を修得し、かつ、本学府が行う修士・博士論文審査および最終試験に合格した者に、修士（農学・工学・学術）、博士（農学・工学・学術・生命科学）の学位を与える。

	生物システム応用科学専攻	共同先進健康科学専攻
A	<p>①生物システム応用科学の基盤となる、農学、工学、理学に関する多面的で基礎的な知識や実験・計測技術を幅広く身につけていること。</p> <p>②物質機能システム、生体機構情報システム、または循環生産システムに関する最先端の専門知識と実験・計測技術を身につけていること。</p>	<p>現象に対し、異なる学問分野から習得した多角的な視点で観察でき、それらを論理的に考察し総括する能力を身につけていること。</p>
B	<p>生物あるいは生態系のモデルとして、その本質を抽出およびシステム化し、そこから新たな生産を創出するという生物システム応用科学の見地に立ち、各専門分野や融合分野において課題を見出し、解決策を立案し、実践する能力を身につけていること。</p>	<p>①生命科学・食科学・環境科学に関わる先端研究を推進する能力を身につけていること。</p> <p>②産業界で新製品開発や新技術開発を牽引する能力を身につけていること。</p>
C	<p>①研究成果発表のための資料作成方法、実験データの整理法、発表方法を習得し、実践的なプレゼンテーション能力や論理性に基づいた的確な質疑応答の能力を身につけていること。</p> <p>②知的財産権、国際規格、企業の社会的責任などの社会的知識を身につけ、研究者や技術者の社会的使命を理解していること。</p>	<p>①高度なプレゼンテーション能力およびコミュニケーション能力を有し、国内外を問わず成果発表・広報・情報収集等に活躍できる能力を身につけていること。</p> <p>②国際基準の機器・新薬・分析法等の開発とリスク管理や審査プロセスを統括する能力を身につけていること。</p>